

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4370600639		
法人名	医療法人 誠真会		
事業所名	グループホーム おかもと Aユニット故郷		
所在地	熊本県玉名市亀甲251-5		
自己評価作成日	平成28年12月15日	評価結果市町村受理日	平成29年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本3丁目13-12-205		
訪問調査日	平成29年1月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者様には残存機能を活かしたケアを行わせてもらいながら、普段通りの落ち着いた生活、個々の性格、ペースに合わせた日常を送って頂けるように配慮しています。また地域の方や行政とも協力を得て、行事や会議などを行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設して14年目を迎えるホームは、母体となる医療機関の敷地内にあり、ゆとりある生活空間と、医療との緊密な連携は、大きな安心感となっている。各ユニットが一つの“家”として、マイペースでの日常生活、買物の日を決め職員との外出を楽しみとされる方や月命日を支援する等個別ケアを徹底している。入居者も参加されるとい特徴を持つ運営推進会議や、家族会等生かした運営体制の他、自然体での対応と根拠のある支援の両立と共に、日々のケア及びプラン作成に理念を直結させる等質の高いケアにまい進している。外部評価を真摯に受け止めていることも入居者の声を反映させたユニット名に表れ、職員が気づきや観察力を生かしたケアであることもカーデックスの記録で確認された。高齢化・重度化の中で、家族の協力も得ながら温泉や熊本城等への日帰り旅行は、入居者のしたい・行きたいの思いと、“瞬間”に視点を当てたケアの実践である。地域に密接しながら、笑顔あふれるホームが形成されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように ○ 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全体で確認し、地域に密着しゆとりと笑顔のこぼれるホーム作り「家」を目指すことを掲げケアの統一を図って理念を大切にしている。また、毎日の申し送り時に、理念の唱和を行い、理念の意義を毎日再確認してもらうよう努めている。	日々理念の唱和により意識を向上させながら、心のこもったケアにまい進している。また、月間目を毎月精査し次月の目標を立てるとともに、自己点検により年間を振り返りケアサービスに反映させている。全職員に理念が浸透していることが、入居者の思いへの寄り添いや職員同士が注意喚起できる関係(チームワーク)、個別ケアの徹底の姿勢等に表れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントのお知らせや声掛けで参加を得ボランティア団体の日舞や近隣の教育、学校の職場体験の受け入れや、又、ボランティアで当施設の行事に参加、手伝いを協力等していただいたり様々な交流を行っている。	開設して14年、地域への啓発は行き届き、行事を通じた地域住民との交流(花見・餅つき・敬老祝賀会や詩吟や合唱団の訪問等)や昔なじみの商店での買い物、職場体験を通じてボランティアとしての訪問に繋がる等、世代を超えた交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的にを行い介護現場を見学したり補助をしてもらうことにより、直に触れ合ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催で近況報告や意見要望を聞き、質疑応答を行なって日常の中で改善すべき事項を提示し、次回の推進会議には、取り組み状況や解決の報告を行い、サービス向上に反映させている。また、定期的に消防や警察の方にも参加して頂き、健康面や防犯についても講演を行って頂き、施設の取り組みに利用させてもらっている。ご家族様にもお声掛けをしているが中々予定が合わず、毎回の参加には至っていない。	このホームの運営推進会議は、入居者の生の声が聞かれること、及び時節により委員が選定されることにある。警察署からの防犯講話や誕生日を共に祝い豆まきを組み入れる等楽しみのある会議としている。行政や老人会長等の質問にはその都度返答したり、検討や調査し次回の会議の中で回答している。家族の参加が少ない状況に、議事内容を報告し、情報を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加や認定調査の機会に市町村担当者へ入居者様の暮らしぶり等も伝達し連携を深めている。	運営推進会議時の情報発信や、認定調査等の書類提出に出かけ情報交換を行っている。また、家族からの質問に対して、不明な点は市担当部署に尋ねたり、アドバイスを得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は施錠の弊害を良く理解し、外出の傾向や心情を察知し、納得させる様な対応や、入り口ドアにチャイムを取り付け未然に防止し、さりげない声掛けや傾聴したり、安全面に配慮して自由な暮らしを支えている。又状況に応じて戸外散歩やスタッフ同伴のドライブや買い物も行う様にしている。日常的な身体拘束に関しては、研修や管理者からの指導を受けた知識で、日々職員同士が声を掛け合い、防止に努めている。又、やむを得ない場合は身体拘束の三原則を理解厳守し、それに基づきご家族様に報告説明と承諾書の提出を義務付けている。定例会でも勉強会を行っている。	身体拘束の三原則を常に話し合い、工夫による拘束の無いケアに努めるとしている。車いすの安全ベルト・転倒防止としてのベッド柵等家族と話し合い、同意書を交わしている。また、虐待が無いようにと、センサーを使用するユニットもあるが、入居者の視線や状況等を把握し早めの声かけや、何をしたいのか家族との相談及び協力を得ながら支援している。職員個々も点検シートにより自身を振り返り、拘束しないでよいケアに努めている。	身体拘束や虐待について、自分たちのケを常に振り返る等意識を高くして臨まれている。今後も拘束しないでよいケア方法を全員で検討していただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カーデックス、個人ファイルを用意し状況把握とケア記録、情報を共有しながら介護計画の見直しに活用している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会参加により学び、対応が必要な方があれば随時職員に説明アドバイスをしに行き支援に結び付けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧かつ十分説明をする余裕がなく重要点のみ説明、疑問点を尋ね理解納得を得ている。後日ご家族様より不十分な所等問われた時は、追加説明も行なっている。重要事項説明書も、玄関に置きどなたでも閲覧出来るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	言葉や態度から思いを察知し、努力しケアに活かしている。又推進会議や家族会・訪問時手紙や電話でも問いかけ、何でも言える雰囲気作りに留意し、ミーティングやノート活用で反映している。	家族会(年1回)のなかでざっくばらんな話し合いが行われる他、前回出された意見をもとにホームで検討した結果等を報告し、運営推進会議・家族会を問題提起の場として、サービス向上に反映させている。毎月のホーム便り、出納帳のコピーの他、行事への参加を促したり、TELにより状況報告、手紙を寄せられる家族等家族との良好な関係が築かれている。担当窓口寄せられた意見や指摘事項は明確にし、全員で精査し家族にも経過を報告している。	運営推進会議への参加を今後も促していただきたい。家族の忌憚りの無い意見や要望が出されることで、更に質の向上に生かされるものと期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃より代表者、職員の間に入り、職員の意見や不満を受け入れてバランスを取っている、又申し送り時に意見要望や提案等を出されたらコミュニケーションを図り、問いかけたり聞いたり、又家族アンケートに出された意見要望に対してもケアの活用の一環として取組んでいる。	毎朝の申し送り、定例会議時意見や提案を出す機会が多く、記録の軽減を図る(処置者リスト)等職員の提案が生かされている。職員の意見をもとに役員会議を開催し、代表に上申する体制としている。また、管理者は職員のがんばりを引き出す工夫や、いざという時の切り札にと職員のスキルアップに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向け支援をし、活かせる業務環境作りに努めている、職員の定期健診も行い、心身の健全育成に努めている。管理者自身にも指導教育を行い、職員に過度な勤務体制にならぬよう指導し、環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し職員のレベルに応じ、なるべく多くの職員が受講出来る様行なっている。又報告等は定例会で発表している、新人研修は数日間マンツーマン体制をとり指導実地している又問題がある職員に対しては個人面談も行いより良いケアを行う様に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二ヶ月に一度グループホーム連絡協議会玉名郡市支部会の研修事例発表を通じ、意見や経験をケアに活かしている。又他ホームとの交流も行いサービスの向上を図っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談以前に既往歴や生活歴等を把握しておき面談時に出来るだけ理解対応出来る体制をとれるように準備しておく、又面談時には本人の今の気持ちや意見を聞き入れ、受け入れの関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が求めているものを理解し、どの様な対応が出来るかを事前に話し合いをしている。傾聴し状況等を把握し、関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時や面接時などでの、会話の中で気付いた事や、必要な事に相談を持ちかけている。又、早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行なっている。改善に向けた支援の提案と信頼関係を築きながらサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人が出来ることを見極め、手伝いや協働を求め共同生活への意欲を高めつつ感謝の気持ちも伝え施設内での役割や立場を確立していただけるように工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子や職員の思いを伝達することにより、ご家族様と職員の思いが重なり協力関係が築けることが多くなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所(床屋・美容院等)に行き、定期的に行かれ楽しく交流がなされ、送迎の支援を行い地域との関係が継続出来るよう取り組みに努力している。又認知症が進行している方には回想法を使い日常会話に取り入れ手紙や写真を見せる等の工夫をして関係が途絶えない様にしている。	馴染みである床屋へ散歩がてらに出かけたり、命日のお寺参り、家族や友人との外出等これまでの馴染みの関係性が途切れないよう継続して支援している。家族との電話を楽しみに携帯を持参されている方もおられる一方で、職員は散歩やドライブ時等話の中からこれまでの生活歴等引き出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に話を傾聴したり、相談に乗ったり、楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りになる様に働き掛けをしている。又時には職員が間に入り関係作りには貢献している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ転所される場合、支援状況を手渡しして、情報提供等交換を行い、行事への声掛けや継続的な付き合いが出来る様心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けし希望、意向の把握に努め、ご家族様や関係者からも情報を得て、ケアにあたり、又ご本人本位になる様に支援している。	入居当初は入居者の隣でこれまでの生活や、話し方等の状況を把握する等、管理者は入居者の願いや希望等を支援して欲しいとしており、職員は情報を収集しケアに反映させている。失語状態にある場合には、主治医のアドバイスにより今後の対応を検討し、本人本位になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との語らいの中、ご家族様や知人の来所時に少しずつ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを理解し、行動、動作を感じ現状の全体像の把握に努めている。モニタリングした日常生活を表として作成し、職員で共有しアセスメントも行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の気持ちや意見を元に、日々の関わりの中での職員の観察、気づき、思い等の意見を反映させ、モニタリング表を作成しアイデアも反映させている。現状に応じた介護計画が作成されている。	本人・家族の気持ちと必要なケアは何かを見極めたプランを作成している。ケアマネジャーによる暫定プランのもと、職員の意見をもとに正式なプランを作成。家族の訪問時に日々の生活や状態を説明し、何か変更する事案があれば随時追記しており、現状に即した個別的且つ具体的なプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カーデックス、個人ファイル、24時間行動表、モニタリング表を用意し状況把握とケア記録		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まず第一にご本人様や御家族様の気持ち、要望に添えるよう考え臨機応変に対応している。又状況に応じて、外出や病院送迎支援にも柔軟に対応している。利用者様の個人的な買い物にも出来るだけ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心に暮らせる様、各機関と協力しながら支援している。ボランティアの協力や、地域の方が飼われているポニーを連れてきてもらい、利用者様が普段接しない動物との触れ合いを持つことで、新しい楽しみを作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医や隣接の母体医院等、ご希望の医療機関となっている。専門的な治療を要する際は主治医より紹介状を頂き専門医受診支援も行っている。	入居前のかかりつけ医や隣接母体医院の他、専門的な治療についてはサマリーを作り、主治医の紹介状を添えて受診している。入院中でも看護師と連絡し合い、以前からの歯科医の継続や訪問歯科等希望に応じており、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に入居者様の健康管理や状況変化に応じた支援を行なっている。相談助言と対応も行なっている。医療機関との連携の支援も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に、ご本人様の支援方法に関する情報提供をし、見舞い時に医師、看護師ご家族様と話をする機会を持ち、対応可能な状態で、なるべく早く退院可能になるアプローチをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様の気持ちを大切にしつつ、ご家族様と話し合い、終末期を安心して過ごしていける様に取り組む努力を行なっている。事前アンケートを取り情報を得、希望に沿うよう、ご希望があれば看取りをホームで迎え、終末期を支援する意向である。	看取り・延命についてアンケートを行い、家族の意向や主治医の指示により支援するとしている。ご家族は“このホームで出来得る限りの生活を”との意向が多く、医師や看護師との24時間連携により終末期を支えている。家族の意向も変わるであろうと捉え、話し合いを重ねる意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接医院への応援を依頼している。又、救命救急(心肺蘇生法)の実技指導を少なくとも年に1回は実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し定期的に消防署の協力を得て、避難誘導訓練及び消火器の取り扱い方法等、訓練し全職員が出来る様に実施している。地域住民参加の協力をも得、防災体制を築いている。避難誘導の中に地震を想定したものを取り入れ実施している。又、避難用具、非常用食料、水も常備している。	熊本地震によりマニュアルを見直し、新たに作り掲示することで意識を強化させている。消防署立会いのもと総合訓練を行い、ヘルメット・防災頭巾の用意や、井戸水があることで地域にも分配できる体制とし、食糧など常備している。また、日々のチェックによりまずは火を出さないよう徹底している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で、ご本人様の気持を大切に考え、さりげないケアに心掛け、自己決定し易い言葉掛けを行いプライバシーの確保や尊厳を守る様支援している。	職員は入居者にとって親しみやすい目線で話しかけ、一人ひとりの誇りを損ねない対応に努め、寄り添いや入居者の笑顔を引き出すケアに取り組んでいる。また、管理者は心のこもったケアのすることや“お願いします。ありがとうございます。”を目標に掲げている。職員のみならず、職場体験時等にも守秘義務の遵守には特に注意を促し、個人情報の取り扱いについては写真使用を含め同意を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは職員から提案はせず、自己決定を促し言い表せない方には、職員側で決定した事を押し付けず、思い、希望、関心、嗜好を見極め、選択肢を提案し自分で決める場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に配慮しながら自分のペースに応じた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本はご本人様の意向で決定、職員は見守り、支援が必要時、手伝いをしているが自己決定困難な方は職員と一緒に考え支援している。その人らしさを保てるよう手伝いを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく全員一緒に食事が出来る様になっている。又、個々に合った食べ方の工夫や食材の大きさ等にも工夫している。同じテーブルを囲み、楽しく食事が出来る雰囲気作りを大切にしている。旬の食材をメニューに取り入れ食してもらったり、希望に沿うよう作り、一緒に準備、後片付けを行い家庭的な雰囲気作りをしている。又、時代に応じた食事やファストフードも取り入れている。	体操レクリエーションの中で食べたい物を聞き取りした献立等、ユニット毎のメニューである。入居者も出来る力を生かし野菜の下準備や味見係、洗い物や食器拭き等自然発生的に取り組み、入居者と職員が食事を共にしている。入居者に合わせ工夫したり盛り付けや形態等を検討し、できる限り自力での摂取に努めている。また、職場体験時のおやつ作りや、ファストフード・回転ずしや外出時のバイキング等選択する楽しみ等気分を変えた外食支援にも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な水分確保の時間を設定し、全員が談話の場としても活用出来るよう工夫している。又、チェック表に記録し情報を共有、バランスの摂れた食事と量、飲み水による脱水防止にも努め支援している。又、個人としても健康管理、病気上での禁止物や量なども医師の指示を受け管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛けや、就寝前の義歯の洗浄に口腔ケアの重要性を理解し、個人別のチェック表を作り、磨き忘れなどがないよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様のサインや時間を把握し、排泄チェック表を使用し、トイレでの排泄を大切にし、誘導排泄を促し支援している。又トイレ介助を要する場合も出来る範囲内での残存機能を活かしたケアを行っている。	入居者一人ひとりの排泄状況やパターンを把握し、必要な部分の介助や時間を見計らった声かけ等トイレでの排泄を基本に支援している。又、夜間時は安眠にも配慮し、おむつ等排泄用品を使い分け、気持ち良い排泄に取り組んでいる。職員での話し合いにより、トイレ誘導を行うことで汚染改善に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を考慮して食材に工夫、主食に糸寒天を混入し繊維質の多い食材、乳製品を取り入れたり、身体を動かす(体操・レク・戸外散歩)機会を設け、工夫し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員のローテーションにより、一人一人の希望、タイミング合わせが困難、午後より順番を決めゆっくり入浴を行い満足感を得られている。拒否などがある方に対しては、職員間で対応方法を共有し、気分良く入浴して頂けるよう支援している。	毎日午後から準備し入居者の希望や体調に合わせており、体調の変化を考慮し湯温や長湯・室温等に配慮しながら支援している。拒否に対しては無理強いをせず時間を置いて声かけする等工夫している。家族との温泉への外出や、一番風呂、入浴剤の他、ゆず・菖蒲湯は2日間をかけ取り入れることで全員に楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	考慮して休憩を取り入れる様支援もしており、就寝前、温かな飲み物を夕食後1～2時間経ってお出しいして、飲みながらゆっくりテレビを見たり、おしゃべりをしたりして支援している。消灯時間になり居室に戻られてからも、個々のペースで読書をされたり片付けをされているので、その様な時間も大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方箋を基本情報としてとっており、内容把握が出来るように、職員がセットする際も、作り間違えがないよう、ファイルを分かりやすく作成している。服薬服用確認と変更時に状態変化にも気を付け、医療機関との連携図っている。又、ご利用者様が安心して服用、飲み忘れがないように薬袋にも工夫したり、職員が薬を分ける時も安全に間違いがないようファイルや入れ物に工夫を施しミスがないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の下ごしらえ、洗濯物たたみ、食器拭き等、得意分野で一人一人の力を発揮してもらえるよう、出来そうな事を依頼し、感謝の言葉を伝えるようにしている。又、時間を持って余しておられているのを察知し、パズル等の新たな楽しみを持って頂くよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調に応じ、高齢化や筋力低下により、毎日の戸外散歩は難しいが、天気の良い日は、敷地内を散歩したりベンチに座ったり、車椅子にて歌を歌ったり、又個別にお買物支援やご家族様の協力を得、外出の機会や、行事の時に協力を得ている。	天気や体調な等を鑑みながら、希望に応じお寺・とこや・買い物等に出かけており、買い物の日を決めて支援する等個別支援や、家族との夕食、日帰り旅行(熊本城、温泉、博物館見学)等入居者の希望をリサーチし各ユニットで外出には家族も同行されている。天気の良い日の散歩等日常と行事としての外出である非日常の外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額を持ち、外出や買い物時に支払われる様支援している。加齢と共に物忘れも目立ち、ご家族様やご本人様と相談上、個々の希望に応じて、事務所保管で個々の金銭出納帳に記入し領収書を添付して定期的に御家族様のサインを貰い管理支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	早朝や夜間等は重要な事以外は控えてもらうようにしているが、その他はある程度希望に応じられる様に電話や手紙のやりとりも自由に出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に、入居者様の作品や自室居入り口に目印をつけたり、月ごとのカレンダー作成を共に取り組み、飾り付けをして季節感を意識的に取り入れる工夫や、玄関に季節ごとの花を生けたり、ゆっくりと過ごせるスペースを作り、その場所で外を眺めながら過ごせる工夫もしている。又ご家族様の意見を取り入れ廊下に温湿度計も設置しており常に把握出来る様にしている。	共有空間は外が見えるように日中はレースのカーテンで過ごし、家族会の意見により温湿度計を設置し、適温を保っている。玄関先の生け花や、七夕短冊、秋には柿及び栗を飾ったり、クリスマスツリー等季節感を出す工夫をしている。また、壁面を利用し、写真を掲示し入居者や訪問者の楽しみに繋げている。また、掃除が行き届い、騒音の無い環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールに椅子を置き、心地良く一人でも過ごせる場所を設け、フロアでもソファに座りテレビ・ビデオ・CDを設置し、家庭的な雰囲気作りにも工夫をしている。又、職員がご利用者様の間に入り、会話や交友関係の懸け橋になれるよう気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込み、居心地良く過ごせる工夫をしている。必要と思われる物品も本人とご家族様に提案し本人の好みの物をご家族様に購入して頂くようにしている。又新たな楽しみを引き出せる様な工夫も行っている。	入居時に家で過ごしている環境がベストであることを説明し、使い慣れたものの持ち込みを依頼している。仏壇、筆筒、マッサージチェア、植木鉢やテレビ等により入居者が安心して過ごすことが出来る環境を整備し、壁掛けのテレビをベッド上で見られる方等自宅の生活線上にある居室等工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへの案内印を壁に貼ったり居室入口のドアにそれぞれ表札を貼り、徘徊防止の工夫をしている。廊下にも不必要な物は置かないようにし、危険防止にも配慮している。自室にも今まで事故等を考慮し、手すりを取り付けたり、職員でアイデアを出し合い工夫を施すようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4370600639		
法人名	医療法人 誠真会		
事業所名	グループホーム おかもと Bユニット松		
所在地	熊本県玉名市亀甲251-5		
自己評価作成日	平成28年12月20日	評価結果市町村受理日	平成29年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本3丁目12-205		
訪問調査日	平成29年1月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>入居者皆様がホームでの生活を自宅と同じ位、又それ以上に安心して過ごしていただけるように、日常生活の支援を行なっています。入居者様と職員が共に笑顔で過ごし、ゆっくりと安らげ、安心した生活が維持できる、地域に密着した「家」作りを目指しています。 隣接する鉄筋3階建ての有床診療所があり、井戸水もあるなど災害時の避難場所おして、地域市民の拠り所となる環境整備が整っている。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p></p>
---------

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人を大切に安心して尊厳のある生活を守り地域に密着し入居者様にゆとりと笑顔がこぼれるホームを目指すことを理念としてミーティング、定例会議時に唱和している。又月刊目標も掲げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム主催の花見、餅つき等のイベントには区長様、老人会会長様をはじめ近隣地区の小学生等の参加が多くあり、入居者様と賑やかな時間を共有する事が出来た。他にも敬老の日には子供会や、中学生、高校生との交流も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献のひとつとして地域の専門学校や中学生及び高校生の職場体験の受け入れを行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催で行政や包括支援センター、区長、老人会長・ご家族様、入居者様も参加して近況報告や意見・要望を聞き質疑応答を行なってサービス向上に反映させている。ご家族様へも関心を持って頂けるよう案内を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	二ヶ月に一度、運営推進会議の場を設け意見や要望を伝えたり情報の交換を積極的に行なっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の定例会において入居者様の状況報告を詳細に行い、その際身体拘束の可能性についても議論しており職員は身体拘束に関して、ドアに鈴を付ける等の工夫をして身体拘束がない様なケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームで研修会を行い虐待の可能性について議論する等して身体的なものだけではなく精神的な虐待もおこらない様に細心の注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会に参加し理解を深める様になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結も際の重要事項等の説明については納得頂くまで説明しており、承諾を得て成立している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの不安・意見・苦情等は些細な事でも聞きその言葉や態度から思いを察する努力をし各ユニットで改善点を話し合い日々のケアや運営に反映させている。ご家族様のご意見、ご要望については面会時や年1回開催している「家族会」で自由に発言を行なって貰うように働きかけている。又、出された意見については、ミーティングで話し合い、それを運営に反映させている。要望や意見は記録に残している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議や申し送りで職員は意見や要望を発言できる。定期的に役員会議を実施し、その意見を経営者に伝える様になっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握している。又、職員の資格取得に向け支援を行い、それが活かせる業務環境がつけられている。年に一度、職員の定期健診を行い心身の健全育成に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH連絡会玉名郡支部会や他協会の研修、学習会に職員は順番に参加し、その後の定例会議で報告を行なっている。又、後日その内容を定例会議の議事録と共に回覧し全職員が閲覧できる様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回、玉名郡支部会や連絡会での研修事例検討を通じ意見や経験をケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握し、ご本人・ご家族様の不安や求めている事を尋ね入居者様の問題点をご本人の立場で受け止められるよう努め信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでご家族様がどのような苦労がありどのようなサービスを利用してきたのか現在に至るまでの経緯について話し合い相談相手として信頼して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人やご家族様の思いや状況等を確認して現在必要とされている支援について他事業所サービスも含め説明紹介出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である入居者様を敬う気持ちを全職員が持ち生活の知恵や文化、作法等について教わる機会もあり食後の団欒等話し合い場面の設定に配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いや困りごと等の話し合いをする機会を日常的に持つ様にして、悩みや問題を共有し共に協力しながらご本人様を支える事が出来る様支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に行きつけの理・美容室等行かれ職員と一緒に買い物等でかけている、又ご家族様や知人友人の面会の際ゆっくり過ごして頂ける様な環境作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の相談に乗ったり入居者様同士の関係が悪くならない様職員が介入し調整役となり食卓の配置にも気を配り、皆で楽しく過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ転所される場合アセスメント、ケアプランや支援状況等を提供し情報交換を行っている。サービス終了後も行事等の案内を送付している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントをはじめ、日々の生活の中で寄り添い関わる事で相手の思いを理解しご家族様と共にご本人様の希望に添う暮らし方を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントをはじめ、日々の関わりの中でそれとなく情報収集が出来る様に関係作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人の生活のリズムを理解すると共に日々変化する状況を記載し全体的な状態について把握出来る様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様とご家族様の意見を元に職員の意見を反映させ介護計画を作成し、又作成後はご家族様に説明し同意を得ている。定期的にモニタリングを行い介護の可能性について議論し計画の改善に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体表、身体状況チェック表で個人の状況を時間を追って記載している、又日々の暮らしやご本人様の言葉、職員の気づき対処した事を記録し朝夕の申し送り時カンファレンスを行ない計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の状況やご本人様の状態に応じて必要な受診がある場合や外出希望時の送迎等も速やかな対応が出来る様取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様と地域とのさまざまな接点を見出せる様に地区の区長様と話し合い相談を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかりつけの医療機関への受診介助や送迎等を行なっている、ご家族様の協力が得られる場合には受診をお願いして他の医療機関との関係を保つ様にしている。又突発的な医療機関の受診が必要な場合には主治医の紹介を通じて受診治療が出来る様に支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接医院の看護師との連携を図り、入居者様の健康管理に努め、異常時には速やかに適切な受診を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医師・看護師・ご家族様と情報交換を頻繁に行い安心して治療が出来る様に、又、早期退院が出来る様に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様・医師・職員を交え終末期の対応方針を話し合い全員で共有し、また変化が有るごとに、ご本人様・ご家族様の意向を確認し支援に努めている。又ご家族様に延命治療について説明を行いアンケート調査を行い、指針としている。又、外部の講習会も可能な限り参加している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	速やかに隣接の医院へ連絡して直ちに医師・看護師の処置が行なわれている。救急時の心配蘇生法の研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、定期的に消防署の協力を得て年2回、火災避難誘導訓練及び消火器の取り扱い方法等を訓練している。全職員が災害時に対応出来る様に努め、訓練には近隣住民の協力と参加も得ている。訓練を記録に残し、職員が常時閲覧出来るようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴の声掛け、誘導等プライバシーや尊厳を守る接し方に配慮して行なう様心掛けている。入室時には必ずノックし、又、自室に不在の際はご本人様に了解を得て入室する様にしている。自室の排泄用品などプライバシーに触れるようなものは、極力覆うようにして配慮に心掛けている。言葉遣いは毎日の申し送りで改めるように指摘している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に合わせて声掛けや対応の仕方を工夫しご本人様に説明し納得した上での自己決定をしていただける様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気持ちに配慮しながら一人一人の一日の過ごし方に出来るだけ添える様、食事時間や起床、就寝時間は各々のペースに合わせる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様の協力を得てご本人様の希望に合った髪型、が出来る様に送迎支援を行っている。洋服は基本的にはご本人様が選んで着用していただいている自分で出来ない方は介助が必要な時は手伝う様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の食べたい物を聞きバランスの摂れたメニュー作りをしている。調理の下ごしらえ後片付け等も興味がある方は一緒に行い、入居者様が同じテーブルに座り、同じ物を食べ楽しく食事出来る様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック表を活用し毎食の摂取状況を記録し職員皆で確認出来る様にしている。食欲減退時は医師、看護師に報告し支持をもらえる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い個々の能力に応じて見守りし介助を行なっている。又、就寝前には義歯洗浄を行なっている。夜間は義歯を必ず外して保管している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し一人一人の排泄パターンを職員全員が把握しさりげなく声掛けをしトイレ誘導を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食物繊維が多く含まれる食品や乳製品を献立に取り入れている。又、軽体操や戸外散歩等で体を動かしていただき便秘予防にも努めている。医師の指示を受けることもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調などを見て入浴を決めている。菖蒲などの入浴剤以外のものを出来るだけ考えるようにしている。入浴を強く拒否される方には、場面を変えたり気分転換を行い、入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や活動量を考えてゆっくりと休息が取れる様に食事の時間やお茶の時間を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の内容を記録し変更時は日付と薬名を記入しカーインデックスに職員皆見れるように貼付している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや洗濯物たたみ等の家事を中心としたお手伝いをお願いしている。又始めと終わりには感謝の言葉を伝える様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に添った外出、買物、散歩の付き添いも行なっている。季節ごとに日帰り旅行やコスモス・花しょうぶ、ふじの花見等も、ご家族様も参加され実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談してお預かりする場合は、基本的には事務所に保管する。それぞれの金銭出納長に領収書を添付して、複数で確認している。定期的にご家族様に確認、サインをして頂き管理支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人一人に合わせて電話を使われるようにしている。又、自分で電話をかけることの出来ない方には職員が介助を行っている。通話中はそれとなく席を外すようにしている。携帯電話も気楽に使っていただくよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのテレビの音量には気を配り、心地よい音量で聴けるよう配慮している。又、月ごとのカレンダー作りや飾りつけ等は適宜行っている。柚子、菖蒲湯、おはぎ、サンマ焼き、などの旬の食材を使い季節を感じられるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士のテーブル席を作り、食後に談笑出来る様にしている。又、玄関ホールには椅子や小さなテーブルを置き生花や写真等で装飾し空間を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様やご本人様には、家具や身の回り物等、使い慣れた物を出来るだけ持って来てくださるようお話している。居室には個々によっては、仏壇・マッサージチェア・テレビ・写真・御自分で刺繍等をされた作品等持ち込まれています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様に分かることや理解出来ること、困った事などいち早く察知して、職員同士が話し合い、状況に合わせてながら環境を整えていくようにしている。又、Dルームのコンクリートのむき出しの柱等は柔らかいものでカバーするなど危険防止に努めている。		